

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成16年9月10日(金) 2校時
児 童 男5名 女6名 計11名
指導者 矢内 雅彦

1 単元名 だいじなところに 気をつけて読もう

教材名 「サンゴの海の生きものたち」 本川達雄 文

2 単元について

第2学年の読むことの目標は「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」である。「易しい読み物に興味をもち、読むこと」を内容としている。本教材、「サンゴの海の生き物たち」では、海の生き物たちの暮らしに興味をもち、大事なところに気をつけて読むことをねらいとしている。「サンゴの海の生きものたち」は、日ごろなじみ深いとはいえない海中の生き物の共生について述べている説明的文章である。生き物に興味をもっている子どもたちは、さらに、未知の海の生き物のかかわり合いについて知る喜びを味わうことができ、意欲的に学習を進めることができると思われる。話題提示の文中にある「たがいにやくに立つようにかかわり合って、くらしている」という言葉がキーセンテンスになっている。さらに「どんな生き物たちがどんなかかわり合いをしているのでしょうか。」と続く言葉が文章を読み解く課題文の役割をしながら、読み手を海の中の共生の世界に連れて行く。また、文章の展開においては、「たいへんなことになります。」と読み手を引きつけ、「でも、～ありません。」と説明する書き表し方が工夫されている。そして、教材文とともに鮮明な写真が使われているのも書かれている情報を十分に補い、学習活動を進めるうえで大いに役立つと思われる。

児童はこれまでに、説明的文章として、「どうぶつの赤ちゃん」では、動物の図鑑などに興味を持って読むこと、「たんぼぼのちえ」においては、時間的な順序に気をつけて読むことを学習してきている。また、生き物を自分たちで飼って、育て方などを図鑑で調べる様子も見られ、本を使って調べることに対して抵抗感はないように思われる。1年生のときから読み聞かせをたくさん聞いてきたことで、個人差はあるものの本が好きな児童が多い。日ごろ、家庭での読書の他、図書館を利用し、じっくりと読む時間もとっている。

指導にあたっては、単元の導入時に海の生き物を題材にした本について紹介したり海の中のビデオを見せたりして、サンゴ礁の周りの生き物たちのようす、海のイメージをしっかりとせたい。本時では、この教材における「豊かに考える」ということを「海の生き物のかかわり合いについての読書材をもとに想像をふくらませ、生き物がかかわっていることについて話すことができる。」ととらえ、単元を通して、意欲的に本を読もうとすることができるようにしていきたい。読み深める段階では、生き物のかかわり方について説明の順序に気をつけながら教材文を読んでいきたい。その際4つの生き物たちがどのようにかかわり合っているか、語句に着目しながら内容をとらえさせていきたい。さらに、自分たちが生き物になり説明できるようにしたい。発展読書では、海の生き物の本を読み、工夫して生活している海の生き物を友達に紹介する場を設定することで、目的意識をもって本を選び、自分の考えを相手に分かりやすく話せるようにしていきたい。

3 単元の目標

○海の生き物の本に興味をもって読もうとする。(関心・意欲・態度)

○生き物のかかわり方について、説明の順序に気をつけながら内容の大体を読むことができる。

(読むことイ)

○登場した生き物になって、かかわり合っている相手にお礼の手紙を書くことができる。(書くことイ)

○教材文を読んで、初めて知ったこと、不思議に思ったこと、見てみたいと思った生き物などを発表することができる。(話すこと・聞くことア)

4 指導計画（11時間扱い）

段階	学習活動		時間	評価規準				
				関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
一次	見通しをもつ	①写真やビデオを見て、海の生き物に興味を持ち学習していくことを確かめる。	1 本時	海の写真やビデオを見て、海の生き物に興味をもつ。	海の生き物について知っていることを話したりすることができる。		学習の課題を見つけることができる。	話題提示の部分の「～でしょか。」をとらえることができる。
二次	読み深める	②イソギンチャクとクマノミの体の様子について読み取る。	1	イソギンチャクとクマノミの体の様子について意欲的に読もうとする。	どんな生き物が出てきたか話すことができる。		イソギンチャクとクマノミについて読み取ることができる。	新出漢字をよむことができる。
		③クマノミの秘密について読み取る。	1	クマノミの秘密について意欲的に読もうとする。	クマノミの秘密について発表したりすることができる。		クマノミの秘密について「だから、でも」に着目して読み取ることができる。	文末表現の「～なのです。」をとらえることができる。
		④イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。	1	イソギンチャクとクマノミが守っていることを読もうとする。	クマノミとの関係を自分の言葉で話すことができる。	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを語と語の続き方に気をつけて書くことができる。	クマノミの秘密やかかわり方について読み取ることができる。	文末表現の「～なのです。」をとらえることができる。
		⑤ホンソメワケベラの体の様子や秘密を読み取る。	1	ホンソメワケベラの体の様子や秘密について意欲的に読もうとする。	ホンソメワケベラの秘密について話すことができる。		ホンソメワケベラの秘密について読み取ることができる。	文末表現の「～からです。」をとらえることができる。
		⑥大きな魚の様子について読み取る。	1	大きな魚の様子について意欲的に読もうとする。	大きな魚の様子について話すことができる。		大きな魚の様子について読み取ることができる。	
		⑦ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて読み取る。	1	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて読もうとする。	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて話すことができる。	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて本文から書き写すことができる。	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて「でも～」に着目して読み取ることができる。	
三次	ひろめる	⑧⑨海の生き物になってかかわり合っている相手にお礼の手紙を書く。	2	かかわり合っている生き物に手紙を書こうとする。	手紙を友達に分かるように発表することができる。	かかわり合っている相手にお礼の手紙を書くことができる。	生き物たちのかかわりについて読み返すことができる。	
		⑩⑪海の生き物についての本を読み友達に紹介する。	2	生き物の本を進んで読み、友達に知らせたいことを書こうとする。	おもしろかった本を発表したり友達の発表を聞いたりすることができる。	本を読んでおもしろかったことや初めて知ったことをワークシートに書く。	自分が調べて見たい海の生き物についての本を読み取ることができる。	

5 本時の指導

(1) ねらい

- ・海の生き物にかかわる本や図鑑、写真やVTRにふれさせることにより、海の中の生き物たちに興味・関心をもち、学習のめあてを見つけることができる。

(2) 本時授業の仮説

国語科で次のような読書活動を行うならば、豊かに考える子どもが育つだろう。

仮説1 海のイメージをもたせ、海の生き物がどんなかかわり合いをしているか、調べていこうという意欲を持たせる活動を導入に位置づけること。

仮説2 児童が興味をもつような海の生き物について書かれている読書材を選定すること。

仮説3 海の生き物についてのイメージをふくらませ、発表する場を設定すること。

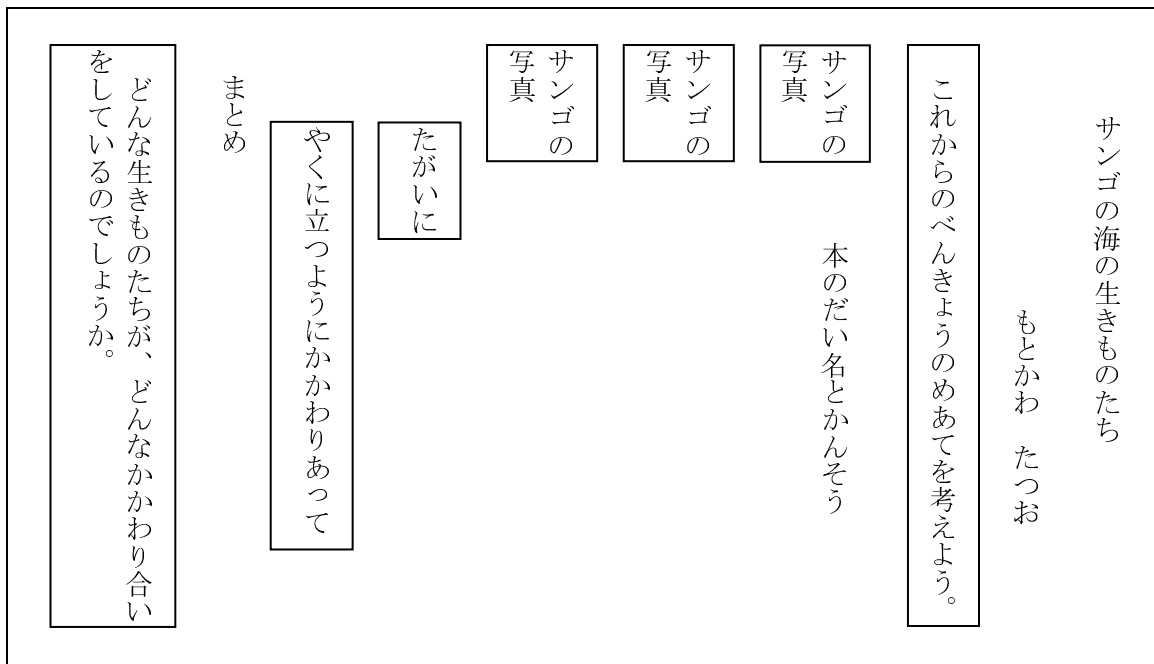
(3) 展開

段階	学習内容	支援と評価	準備
導入 10	1 海の生き物についてイメージをもつ。 ・題名について考える。 ・海の生き物について話す。 ・海の生き物の写真を見る。 2 課題をつかむ。	○今までの読書活動において海の生き物について知っていることを話させる。 ○海の生き物の写真を見ることでイメージをふくらませたい。	読書材
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> これからのべんきょうのめあてを考えよう。 </div>			
展開 25	3 学習の見通しをもつ。 4 教材文を範読する。 ・教師⇒児童全員 5 話し合う。 ・話題提示の文を考える。 6 まとめる。	○サンゴの海の生き物を詳しく学習していくことを確かめる。 ○サンゴの海の生き物のVTRを見せることで教材文の読みとりを深めたい。 ○「たがいに、やくに立つようにかかわり合って」という語に着目させる。 ○片利共生している生き物について書かれた読書材を提示することによってかかわり合いを明確にする。 ○片方だけの生き物がかかわるのではなく、お互いにかかわり合っている生き物について学習していくことをおさえる。	読書材 読書材
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> まとめ例 どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。 </div>		*これからべんきょうするめあてをつかむことができたか。 ○課題文を視写させる。 ○どこが大事なところなのか意識させながら読ませる。	ワークシート
終末 10	7 本時の学習を振り返る。 8 次時の予告をする。	○調べてみたいことや学習の感想を書かせる。 ○次の時間から教材文を読んでいくことを知らせる。	振り返りカード

(4) 評価

評価場面	具体的評価規準	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への支援
話題提示の文をとらえる場面 (発表・ワークシート)	読 かわり合いの話し合いから、課題文を見つけることができる。	かわり合いについて意味をしっかりとらえ、課題文を見つけることができる。	課題文を自分で見つけることができる。	児童には、「～でしようか。」の文をヒントとしてあたえ、課題文を見つけることができるようにする。

(5) 板書計画



6 利用する読書材

- 『さんご礁のなぞをさぐって』 武田正倫 (文研出版)
- 『サンゴの海』 ジャック＝イヤー (フレーベル館)
- 『サンゴ礁の世界』 白井祥平 (あかね書房)
- 『ぴっかぴっかの海』 中村征夫 (講談社)
- 『さんご礁の小動物』 小島敦夫 (グラフ社)
- 『さんご礁の生物』 佐藤道夫 (パシフィカ)